

令和4年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和5年2月14日（火）午後2時～午後4時

場 所： 市役所金剛連絡所2階 ホール

出席者：

【委員】：15名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）

友田 研也、新里 恵美、溝口 俊則、吉村 明、小野 達也、野村 恭子、

廣崎 祥子、島岡 秀行、木全 剛司、占部 訓司、大山 美里、佐藤 笑美子、

品田 忠司

欠席者2名

山田 貴之、森木 和幸

【事務局】：4名

[富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室]

塚本 隆之（室長）、松本 憲昌（室長代理）、竹川 智也（主査）、加茂 武（副主任）

【会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）】：2名

[株式会社ダン計画研究所] 上岡 文子（コンサルタント）

[特定非営利活動法人きんきうえぶ] 寺田 誠（コンサルタント）

開催形態： 公開（傍聴人：0名）

次 第：1. 開会

2. 案件

（1）金剛地区再生指針の取組

①地域のまちづくり活動について

②市が進める取組について

（2）その他

3. 閉会

議事録： 全文筆記

1. 開会

(事務局：塚本)

- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることの報告
- ・議事進行にかかる留意事項等の確認
- ・資料の確認

2. 案件

(増田会長)

皆さん、こんにちは。少し定刻を過ぎるかもしれませんが、意見交換をしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。次第にございますように、案件につきましては、金剛地区再生指針の取組というのが、(1)資料2「地域のまちづくり活動」、(2)資料3「市が進める取組」、(3)その他ということで、順次進めていきたいと思います。適宜、補足等をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、早速ではございますが、資料2に基づいて、順次、地域のまちづくり活動についてご報告いただきながら、意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(1) 金剛地区再生指針の取組

①地域のまちづくり活動について(資料2)

(友田委員)

- ・1. 寺池公園等を活かしたまちづくりの会について説明。

(増田会長)

ありがとうございます。何かご質問、ご意見等ございますでしょうか、いかがでしょうか。最後の令和5年度取組ですが、直径が30cm以上になると、なかなか素人の手ノコでは切れない。その辺りの市との連携のあり方みたいな整理というのは、市の方であるのでしょうか。

(事務局：塚本)

本市であれば、農とみどり推進課というところが、公園関係の窓口になっておりまして、対応の方をしております。どこまでどのようなことが出来るのかというところは、私たちが間に入れていただくことも出来るかもしれませんが、出来るだけ早い段階から担当課と話をしてですね、こうすることになったからお願いしますとかではなくて、早期の段階からご調整をなるべくするように、していただけた方が良いのかなと感じているところです。答えになっているのか分かりませんが、よろしくお願いします。

(増田会長)

一つは、やはり直接公園管理をされている部署と市民の方が、同時に現地に立ち会って、どの木

が不良木で、どれくらいの作業量でそれが出来るのか、ということ一度計量してもらおうというようなどころだと思います。里山の管理というのは、大体20年から25年で、かなりの間伐をして更新をするんですけれども、それが一度きっちりされると、あとは中低木になりますので、住民で管理できるんですよ。だから初期整備というのは、少し重機が必要になったり、技術が必要になるので、その辺りですよ。

私がやっている堺市の取組も、なかなか一気に予算化は出来ないんで、計画的に1年に10本ずつくらい切っていくとか、そういうことを市と協議しながら、展開していくということになるのかなと思いますね。

もう一点は、プレーパークをされるのは良いんですけども、これを本当の意味でどのように自走していくかということですよ。当面は全部ボランティアでお手伝いをしていても良いのかもしれないですけど、それで本当に長続きするかどうかとなってきたときに、どうやって自走していくのかという仕組み、これも市と少し、どんな形での自走を求めるのかというような協議をしなければならないですね。

だからこの場合には、極端なことを言うと、市がここに年間掛けている管理費、そんなに多額の管理費は掛けていないと思うんですけども、ある一定の管理費を掛けていて、それを住民が出来るところに関しては、住民の組織に出来るのかどうかとか、或いは、プレーパークの活動そのものを、ある意味受益者負担的にやるのかどうか、その辺りも少し議論をしないとイケないのかな。やっておられることは非常に良いことで、これをいかに継続していくかといったときの課題としてということで、私自身気づくのはそんなところですよ。

あとは、よく言うんですけども、木の名前とか種類とかを知らないんで、なかなか決定できないんですという相談をよく受けるんですけども、3人の人間がいて議論をすれば、大抵間違いはありません。1人でやると、ついつい間違ったことが起こりますけれども、3人寄れば文殊の知恵で、ちょっとここは切りすぎてるとか、ちょっと死角が発生して子どもの姿が見えなくなるとか、色々なことを考えていくと、そんなに大きな間違いはないので、何人かで協議をして共有することが非常に大事だと思いますので、その辺を展開していただくと良いかと思いますけれども、はい、よろしいでしょうか。はい、占部委員どうぞ。

(占部委員)

不意に思っただけなんですけれども、すごい整備をやってもらって、僕も生まれ育ったところなので、有難いなと思って聞いていて。今キャンプとか流行っていて、このキャンプとかってこんなところでやってはダメなんですかね。今はダメじゃないですか。これを許可を出して出来るようにするとか、例えば釣りも流行っているし、ブラックバスを釣ったりとか。橋桁を付けてもらって、普段は立ち入り禁止にしておいて、釣りを出来るようにするとか。もっとたくさんの人に来てもらったら、もっとお金を掛けてやっても良いのかなと思ったんですけども、どうなんでしょう。

(増田会長)

基本的には都市公園は今のところ、火気厳禁であったりとか、或いはこの頃だと、花火も出来ないというような状態になっている。但し、きっちり地域と合意出来て、ある一定のルールの中でや

りましょうということが了承されていくと改善されていきます。だからその辺についても実績を作って、やっぱり人がたくさん使えるようになれば、トイレの必要性も出て来るでしょうし。ここでボール遊びが出来るようにとか、カヤックが出来るようにとか、一足飛びにお金を掛けられるかと言うと、今の財政状況から言うと、なかなか難しいでしょうから、今やられている延長線上で、協議をしながら展開していくということになるんじゃないでしょうかね。

プレーパークはもともと、あれをやってはダメ、これをやってはダメという法令ばかりだったものに対して、全国的な動きとして、どろんこ遊びをさせるとか、火遊びをさせるとか、木登りをさせるとか、そういうことをリーダーが付いて、子どもに自由な遊びをさせようという、そういう伝統的な動きの中から生まれてきたものがプレーパークなんです。よく行政の方は、プレーパークは指導者が付いてやらないと危なくて、子どもが遊び方を覚えてしまったら、指導者がいないときに遊んでしまうんじゃないかみたいな話があって、よく行政と揉めるんですけども。それはやはりプレーパークをしたときに子どもに対して、単に遊ぶだけではなくて、やっぱり外で遊ぶときのルールを守って、安全を担保しながら遊んでくださいという、学習もしながらプレーパークをしてもらうというのが基本だと思いますけれどもね。

(占部委員)

実際僕はよくここでよく遊んでたので、木にも登ったし、言ってみるとこういうことをやっていたわけですよ、アーチェリーはやってないですけども。

(増田会長)

昔はね、なぜ許されたかという、子どもの社会の中にガキ大将がいて、それが一定の川遊びや火遊び、山遊びをするときに、危険性を教えていたんですね。もう一つは、街中や遊んでいる近辺に人がいてたんですね。だから、一定の社会的背景の中で許されるようになっていたと。ところが、今それを教えてもらえるガキ大将の仕組みが全くなくなっていると。それと街中の昼に、大人の目がなかなか行き届かない。こういう背景の中で、どんどん後退していったと。だからそういう安全管理の仕組みを作るといふ話と、大人が安全担保をしていくような、そういうことができると、だんだん定着していくという風に思うんですね。そんなことで答えになってますでしょうか。

(占部委員)

ありがとうございます。すごく分かりやすいです。

(増田会長)

よく言うんです。ガキ大将というのは、屋外遊びの怖さや難しさ、危険性みたいなものを、ある意味伝授するような仕組みでもあったと。この議題はこのくらいでよろしいでしょうか。それでは、少し長くなりましたけれども、次に金剛マルシェについて、よろしく願います。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

- ・ 2. 金剛マルシェについて説明。

(増田会長)

ありがとうございました。これは木全さん、何か補足ございますか。

(木全委員)

そうですね。下半期はイベントが結構あったので、いつもより集客が出来ていたのかなと思います。課題には集客もありますけど、やっぱりイベントのときはたくさん人がいらっしゃるんですけど、そうでないときの集客方法は今後の課題かなと思いますね。だんだん取組が広まって行って、地域の方がたくさんいらっしゃって、子どもさんも増えて、逆に我々商店街の方も、これに合わせて何か色々なイベントを組み合わせてやっていけたらなという風に思っております。

(増田会長)

これは出店者の方、2千円を出してでも出店しましょうというのは、24店舗も出て来ているというのは、非常に大きな話ですね。農家側の反応はいかがでしょうか。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

実際に農家さんからも出店料をいただいているんです。半年で2千円ですけれども、それくらいであれば全然出しますということで、集客に関しても、実行委員会で頑張っているということも農家さんも理解してくれていて、出店料についても協力しますということで言ってくさっています。

こういうハロウィンとかクリスマスは、やっぱり子供さんをメインターゲットにしているので、お客さんが早い時間帯に来られるということで、農家さんは当初15時からしか絶対に来れないということだったんですけど、お客さんが来るなら14時から来ようかなとか、ちょっと早めから来てくださったりしてるので、だんだん色々な形で協力できているのかなと思います。

(増田会長)

基本的には、農家さんにとってもWin-Winの関係が作れるようになると成立するので。こんな話があるんですね。例えば、直販とかマルシェの良さというのは、農家の人にとっては、市場に流したら一束100円、それが市場を伝わって行って消費者が獲得するのが200円、それをこういうマルシェとか直販とすると、農家は150円で売れる、消費者は150円で買える。そうすると、買う方は50円安く買えるし、売る方は50円高く売れる。こんな構造が根付いていくと成立するという話で、これはかなり自立・自走型になったので、非常に良いなと思うんですけども、その辺の話ですよ。だから農家にとって一番は、時間を取って出て行ったけれど、売れ残りませんでしたというのが一番大変で、いかに完売するかということ、皆でどう協力できるか。地域の方も、足繁く足を運んでいただいて、極力売れ残らないようなコミュニティ作りというのですかね、そういうものが出来ると良いなと思いますけれどもね。よろしいでしょうか、他にいかがでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、続きまして、3. わっくカフェですね。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

- ・3. わっくカフェについて説明。

(増田会長)

ありがとうございます。これは中井さんの方から何か補足ありますか。

(中井副会長)

わっくカフェをオープンして1年が経ったんですけれども、オーナー数111名と書いていますけれども、実際にオーナーとして入られている方は、どんどん固定化していったんですね。どんどん新陳代謝をしていきたいなと思っているんですけれども。午前の枠と午後の枠があって、午前の枠というのは、割と皆さん入られるんですが、午後の枠というのが、ちょうど奥様方が夕食を作ってもらっしゃるので、なかなか皆さん入りづらいので、その辺りを改善していけたらと思っています。

あとはカレー食堂を子ども食堂としてやっていますけれども、それなりに認知度が上がって来たので、数を増やすかどうかというところ。月2回ですので、この辺りの検討が今後の課題だと思います。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。何か質問とかご意見ございますでしょうか。はい、新里委員どうぞ。

(新里委員)

わっくカフェで午後枠が埋まらないということで、夜使用するにあたって、音とかに関して問題はないのでしょうか。

(中井副会長)

一度生バンドをやったことがあるのですが、午後8時くらいですね、店舗の上には住居がありますから、どうしても音が漏れるっていうのはあるんですけれども、どれくらいボリュームを抑えるかというところですが、それ以来はやっていないです。

あとは、酒類について、やっぱり酒類を提供する方がお客さんは来られるし、皆さんわいわいと楽しいと思うのですが、店舗の上の住居の方との兼ね合いが問題かなと思っています。

(新里委員)

若い方たちの集う場としては、夜というのは活用性があるのかなと思うので、工夫をして活用性を高めていけたら良いなと思いますね。ありがとうございました。

(増田会長)

ありがとうございました。他いかがでしょう。私の方で2、3点、少し負担を掛けるような話なんですけれども、オープンから1年経つので、もともとこれをやり始めたのは、単身高齢者の居場所づくりであったり、不登校生だとか、少し問題を抱えている子どもの居場所づくりだったりというのが、最終的なアウトカムだと思うんですね。それをどれくらい実現できているのかということ、そろそろ一年くらい経つと、利用者アンケートであったりとかの話の中で、本当に当初意図してきたことを出来ているのかということ、一度振り返る必要があるのかなと。

もう一つは、子ども食堂もそうなんですけれども、やっぱり利用したお子さんに、一行でも良いから何か感想を書いてもらう利用者カードみたいな話と、店舗側は、その日活動したことを振り返りシートみたいなもので少し記録を取っておくと。これは、どこかに助成事業等を応募に行くときに、この辺りのエビデンスは非常に大きな力になって、こういうエビデンスがあるので、居場所づくりというものに非常に大きな貢献をしていると、そういうところにも繋がるんです。そろそろ1年くらい経つと、一度どこかでアンケート調査をしても良いのかなと。これは、運営されている方にとって、大変な作業になるようであれば、こういうところに学生に入ってもらえると上手いんですけどね。学生の卒業研究とかの材料として、利用者アンケート調査をしてもらえませんか、みたいな、そういうところが出て来ると、非常にありがたい話です。私がもともといた研究室の学生は、よくまちづくり活動に参加をさせて、学生にとっては、卒業論文のためのデータ収集になるし、地域にとっては、自分たちに出来ない調査をやらせてありがたいという、そんな関係もこれから考えていくことが必要かなと言うことだと思います。

(中井副会長)

ありがとうございます。アンケート調査はやっていけたらと思っているんですけども、居場所の話で、もともとそういうものを目指していたんですけども、どうしても維持管理をしていくために、お金を稼がないといけないんです。それで今オーナーカフェという仕組みでやっているんですが、オーナーカフェをすると、どうしてもオーナーさんのメニューがありますから、それを注文しないといけないという認識を来られる方が持ってしまうんですね。表向きは水だけでも結構ですよと言っているんですが、実際にオーナーさんが入っていると、なかなかそういうことにはならなくて。オーナーさんが入っていないときは、水だけ飲んで帰ってもらうということが出来るんですが、その辺りがちょっと難しいですね。

(増田会長)

小野先生、例えば、ここにソーシャルワーカー的な人がいて、悩み相談を受け付けるとか、そんなことって難しいんでしょうか。

(小野委員)

今の増田会長のお話は、居場所づくりをやったときに、例えばその居場所で、プラスアルファを設けるかということですね。居場所づくりの中で、もう一つそこに行きやすいポイントを作ってくれるような、そういうものがあることによって、例えば、ちょっと話をしたいという人からすると、かなり行き着ける場所になるのかなと。そういうことはあります。そういうことは、専門的な立場でやることもありますけど、例えば、お子さんだったら、お兄ちゃん、お姉ちゃんがそういう存在だったり、或いは大人だったら、地域の人でそういうことを聞ける人がいれば、素人がそういう役割をすることも展開としてはあるのかなと思います。

もう一つ、中井さんのおっしゃっていた、当初の目的はこうだったんだけど、実際やってみるとこうだった、ということも当然ありますよね。そうした場合に、一通りやってみた後に、目的自体をどうしようかということをもう一度考えてみる、そういう評価の仕方もあるのかなと思っています。

それでもう一度組み立てていくということもありますから、地域の方は柔軟にやった方が良いと思いますので、その辺りは色々な評価の仕方がありますから、例えば、一年経ったところで皆で考えてみるようなことをしてもいいのかなと思います。

(増田会長)

ありがとうございます。よろしいでしょうかね。活動の段階に応じて、色々な取組のフェーズがあるかと思いますので、その辺は柔軟に展開しても良いと思いますね。

(占部委員)

結局、お酒は今はやっていないんですか。

(中井副会長)

夜入られるオーナーさんがおられるときは、ときどきやっています。

(占部委員)

そのときは結構人は来るんですか。

(中井副会長)

やっぱりお酒を出すとそうですね。

(小野委員)

そのときに先ほどのわいわいし過ぎないような工夫があると良いですね。

(占部委員)

普通の店舗があそこに入った場合、別に問題ないわけですよ。例えば、木全委員の店の横が空いていたら、そこに居酒屋さんが入った場合、何も問題ないわけですから、わっくカフェがダメだということではないですよ。

(中井副会長)

酒類がダメだというわけではありません。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうかね。それでは、次は、4. KON ROOM について、よろしくをお願いします。

(株式会社ダン計画研究所：上岡)

- ・ 4. ∞KON ROOMについて説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。ただ今の報告に関しまして、何かお気づきの点はございますでしょうか、いかがでしょうか。ちょっと私勉強不足で、体組成計というのは何なんでしょうか。

(事務局：塚本)

本市のSDGsの取組で、このような活動量計をお持ちいただいて、それをリーダーとのところにタッチいただいたら、それがデータとして吸い上げられて、ご自身の健康状況が確認できるような、そのような事業をやっておりまして、それに必要な体組成計と言いまして、体重計の高度なものです、身体のデータが分かるような機械をKON ROOMの方に設置をしております。

(増田会長)

これは結構な利用者数ですよ。

(株式会社ダン計画研究所：上岡)

半数くらいは占めています。

(増田会長)

体組成計を設置しているところは、他にも何か所かあるんでしょうか。

(事務局：塚本)

木全委員の店舗もそうなんですけれども、地域の店舗の方に、そういうリーダーを置いてですね、店舗を回って、ついでにお買い物もしていただくようなスキームでやっているんですけれども、一応管理が必要な体組成計に関しましては、基本的に公共施設の方に置いておりまして、市役所の本庁であったり、金剛地区であれば、KON ROOMに置いております。

(増田会長)

施設利用を誘発する仕組みとして非常に有効で、上手く活用しているということですね。今大阪府がやっている、歩数がポイント還元できる仕組みがありますよね。あれの対象になると、途端に利用が増えるというものもあります。

(新里委員)

今の3,000人の方は体組成計を目的に利用されたと思うんですけども、計測をしてすぐ帰るのか、居場所としてどの程度、活用されているのかというところをお知らせください。

(株式会社ダン計画研究所：上岡)

殆どはやはり歩くことを目的に来られて、記録をされていくという方が多いので、リーダーをかざしてそのまま帰っていただく方が殆どです。ただ、拠点にいるスタッフと会話をして、今日はどうですかというような日常的な会話をしたりだとか、水・木曜日であれば、野菜販売をしています

ので、買い物もしていただくこともあったりですね。来られてすぐに帰っていく方が殆どなんですけれども、職員とのコミュニケーションにも繋がっているという現状です。

(増田会長)

先ほどのわっくと同じように、居場所として形成されていく中で、ちょっとした相談や、或いは話を聞いてもらえるような相手がいるとか、特にこの自習利用者の466人も、非常に勉強に熱心で来ているのか、或いは学校以外のサードプレイスの形で来ているのかとか、そこに悩み相談室があるのかとか、次のフェーズで、その辺りを目的とした居場所づくりが出来るのかということも、大切なことかもしれないですね。はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

(事務局：塚本)

KON ROOMですけれども、UR都市機構様との調整も終わりました、来年度以降も継続して開設する方向で、予算要求の作業を進めておりますので、お知らせさせていただきます。

(増田会長)

はい。継続していただけるのは非常にありがたいです。但し、1年或いは2年開設したときに、一体どういう効果が獲得できて、どういう課題が残されたのかは、きっちり評価をして継続することが重要かと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。よろしいでしょうか。それでは、続きまして、5. 金剛地区の居場所・イベントMAPについて、よろしくお願ひします。

(事務局：加茂)

- ・ 5. 金剛地区の居場所・イベントMAPについて説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。佐藤委員、どうぞ。

(佐藤委員)

富田林市第三圏域地域包括支援センターけあばる金剛の佐藤です。綺麗に作っていただいて、ありがとうございます。地域包括支援センターの代替介護サービスやデイサービス等、単にサービスをご紹介することもありますけれども、どこか交流等が出来る居場所はないでしょうかというご連絡をいただくことがあって、今回このような地図について、金剛地区再生室さんの方から提案があって、私たちもほしいと思っていたところに、大変タイムリーな話だったので、色々なところをこれだけまとめていただいて、私たちの協力は本当に微々たるものだったと思うんですけれども、これから窓口に来られた方に、色々情報を伝えられるようになりました。今説明いただいたように、これは時とともに変化していくものだと思います。もっと増えてほしいし、もっと市民の方からこういう居場所を教えてくださいなと思ひます。本当にぜひ活用させていただきたいと思ひます。どうもありがとうございました。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。やっぱりある意味、居場所づくりという話の中で言うと、選択肢がどれくらいあるかということが非常に重要だと言われています。そういう意味で、一定の選択肢が目で見えてわかるというのは、非常に有効なものだと思います。

あとは、大阪府のニュータウンなどで問題になるのは、集合住宅のところはある程度居場所があるんですね。この地図で見ると、戸建住宅エリアが殆どないんですね。その辺の課題認識というのは、特にないんでしょうかね、いかがでしょうか。戸建住宅エリアにも、独居老人がおられるところが非常に多くて、或いは空き家がけっこう発生していて、そこが流通しないとか、そんな課題というものが、戸建住宅エリアにはあると思うんですけどもね。その辺はいかがでしょうか。はい、どうぞ。

(大山委員)

富田林市社会福祉協議会の大山です。この地図の作成にあたりまして、事務局をさせていただいております福祉委員会さんでありますとか、老人会さんの方からも情報提供いただきまして、地図に落とし込んでいただいた形になります。今、増田会長からお話があったように、高辺台や久野喜台のUR賃貸住宅エリアではない戸建住宅エリアの近隣には、なかなか居場所というところがないというところが、現実にはなっているんですけども、それぞれの校区の福祉委員会さんの方で、サロンというものを開催していただいております。そのサロンは基本的には小学校で、高辺台小学校や久野喜台小学校で開催していただいております。その際にですね、福祉委員会さんの方で協力いただきまして、戸建住宅の高齢者の方を送迎していただいたり、そのような工夫をいただいている形となっております。

あとですね、きんきうえぶさんであったり、第三圏域地域包括支援センターさんと一緒にさせていただいている協議体の中でも、居場所づくりの地図というものは、これまでも取り組んでいこうという話はしていたんですけども、戸建住宅エリアの中では、例えば喫茶店などが居場所になっているというお話を聞くんですけども、実際にそれをこういった地図に載せる方が良いのかどうなのかっていうのは、毎回議論になっているところではありますので、またそういった情報も載せられるのかどうかというのは、今後も考えていきたいなと思っております。

(増田会長)

そうですね。すみません、ちょっと気になったのが、戸建住宅の中で、少し兼用住宅に転換しているものがあって、それが喫茶店であったり、或いは診療所になったりしていて、特に診療所などは、お医者さんに診てもらっても待合室でしゃべっている方が居場所になっているようなところもけっこう多いので、その辺りのところも少し、どのような形でフォローできるのかというのは、一度議論をいただいても良いのかもしれませんね。小野先生、何かございますかね。

(小野委員)

サードプレイスとして、公共的なところは書けるんですけど、先ほどお話があったように、個人が開いているようなところとか、専門職はおそらく共有した方が良いと思うんですけど、そういう

形でやるのかということが一つと、もう一つは、居場所に来れない人や来れない人たちもいますので、まちづくりというより、個別の支援の方に入っていくのですが、それも地域づくりかなと思うので、そういう両方の対応を狙っていく。来れる人には、メニューを増やして、こういう居場所がありますよと案内していくんですけど、来れない人たちはどうするのかというと、もう一方で何かを考えていく必要があるのかなと思います。

(増田会長)

ありがとうございます。

(吉村委員)

ちょっとよく分からないんですけど、幼稚園とか保育園とかも入ってるじゃないですか。室内開放とかあるんですが、僕のイメージでは保育園とかは入る手続きを取って、親が迎えに行くとかいう場所で、これはどういうことで居場所になるのか、ちょっと僕には分からないのと、それと葛城中学校の方で、すこネットが居場所になってるんだけど、これはどういう考え方でここに入っているのか、ちょっと概念が分からないので、居場所の概念とかがね、もうちょっと整理しないと、ぐちゃぐちゃになってるイメージがするんですが、これはどうですかね。

(事務局：加茂)

私もこの資料を作り始めるときに悩んだのですが、居場所という考え方は人によって様々だと思っています。例えば、何か拠点となる施設があることが居場所の条件だという方もいらっしゃるでしょうし、組織があれば、それが居場所だと考える人もいらっしゃる。金剛マルシェのように、月に1回のイベントがあれば、それが居場所だという考え方もあって、人によって居場所に対する考え方は様々だと思っています。そういう意味で、今回は居場所というものを、なるべく狭く捉えずに、なるべく広く捉えて、資料として整理させていただきました。

(増田会長)

保育園などでも、例えば、地域のご老人のためにコミュニティカフェを開いてますとか、地域に室内を開いているような保育園もありますね。そういうことを書かれているのではないかと。

(事務局：加茂)

おっしゃるとおりです。

(吉村委員)

誰でも利用できるんですか。

(事務局：加茂)

基本的には、小さなお子さまがいらっしゃる、お母さまだったりお父さまが、お子さまと一緒に室内でおもちゃを借りて遊んだり、そのために室内や園庭を開放していて、そのようなものも居場

所として、資料にまとめさせていただきました。

(増田会長)

利用できるのは特定の日なのでしょうか。

(事務局：加茂)

そうですね。利用日が不定期だったので、ちょっと日にちとして書くことはできなかったんですけど、随時お問い合わせいただければ、室内や園庭を開放している日もあるということです。

(吉村委員)

すこネットの方は。

(増田会長)

大学も含めてなんですけど、地域にオンをしないと、すべてのことが成立しなくなってきていて、大学などでも、一般の方向けの講座を開いたりだとか、保育園などでも、未就学の園児向けの開放日を設けたりだとか、周辺の居住者への開放日を設けたりという形で、いかに地域にオンしながら、事業活動をしていくかという、そういう時代になってきているんだろうと思いますね。

(溝口委員)

すこネットというのは、町会等でイベントをやっているわけで、吉村委員のところにもすこネットのニュースが入っていると思うんですけど、活動しながらカフェを開いたりしてるということで、同じことです。

(増田会長)

もしも可能なら、問い合わせ先みたいなものが書けるのかを考えていただいても良いかもしれないですね。

(友田委員)

ちょっと一点だけよろしいですか。具体的な話で申し訳ないんですけど、私は寺池台三丁目に住んでるんですけど、集会所のところで、高齢者の方が集まれるイベントをやってるんですけど、それは三丁目では割と有名な活動なんです。そういうものを吸い上げられるシステムになっていないということですか。割と熱心に活動されてるんですけどね。

(新里委員)

自ら声を上げないと載ってこないと思いますよ。

(事務局：加茂)

今回聞かせていただいた範囲ではちょっと入ってなかったんですけども、もしこちらに載ってい

ないような情報があれば、友田委員からでも大丈夫ですので、教えていただけるとすごく有難いなと思っております。

(友田委員)

自治会に、こういうものを整理してるので出してくださいと言えば、出て来ると思いますよ。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。それでは、続きまして、「6. 新たな参加者の呼び込み」について、よろしくをお願いします。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

6. 新たな参加者の呼び込みについて説明。

(増田会長)

ありがとうございます。何かお気づきの点ございますでしょうか、いかがでしょうか。一点、最近他のニュータウンでもお話していたんですけども、情報発信側のスキルアップ、これはすごく大事ですし、チラシなどがお洒落になったりして、効果が現れているんだろうと思いますけど、受け取る側の救出くらいはできないかと。家族とLINEくらいしかしないという人に対して、市の広報の情報を受け取れるとか、ここでの活動の情報を受け取れるとか、これは意外と足りていないんですね。少なくとも、スマホで色々な情報をどうやって獲得するのか、そういった受け取る側の講習会も必要ではないでしょうか。先ほど、来てくれる人は良いんだけど、来てくれない人にもその辺りの講習をどうするのかというような辺りも、少しお考えいただけると。発信側と受信側にけっこうバリアがあって、その辺りのことが出来ないかなということが一つ気づいた点ですね。

それともう一つ、交流会については、これはあくまでもまちづくり会議の活動発表という、やっぱりこれをやることによって、先ほどのKON ROOMも新たな参加者が出て来るとかいうような形ですね。これは基調講演が1部で中心なってるんですけど、今後されるのであれば、活動報告をきっちりするというのが、新たな担い手づくりの大きなやり方ですので、その辺を少し考えていただけると有難いなと思います。

それともう一つ、こういう新たな活動をしてもらうときは、どちらかという、やっぱりアクティブラーニングが必要で、講義を聞いて活動報告を受けるというよりも、自分たちが何をしたいんですか、何をやるんですかという、ワークショップ付きの交流会にしてほしいですね。参加型交流会といいますかね。講義を受けるというのは、教養としては身に付くけれど、第一歩としては踏み出せないで、ぜひとも第一歩を踏み出せるような工夫をした交流会にしてはどうかかと。

よろしいでしょうかね、少し時間が押しています、すみません。次は「7. 金剛地区まちづくり会議 運営会議」について、よろしくをお願いします。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

7. 金剛地区まちづくり会議 運営会議

(増田会長)

はい、これは何かご発言ございますでしょうか。

(友田委員)

この運営会議で、いつも次のまちづくり会議をどうしましょうという話をしていますけれども、やっぱり会として、今年度何をしましょうという方針を考えたり、それを議論して、そのために次の会議はどういう課題を解決しましょうとか、こういう議論をしましょうという話にしないと、もともと何をしようという議論をしていないから、ちゃっちい議論しか全然出来てないんですよ。もう年度が変わりますから、来年度はどういうことをしましょうという議論を寧ろすべきでね、そこを固めた上で、じゃあ次の会議は何をしましょうという話をするというような、ちょっと考え方を覚えてもらえたら有難いなと。

(増田会長)

目標を共有して、それに向けて何をやっていきたいと思いますかみたいな、そういう目標共有型の、あまりガチガチの目標でなくて良いと思うんですけど、そういう方向で進めればどうかということですね。そういうことで、次年度も会を活性化させていただければと思います。ありがとうございます、第1部で時間が大分過ぎましたけれども。あと一つは、「②市が進める取組」ということで、2つのご紹介がございます。時間の関係で一括して報告いただいて、ご意見いただくということで、よろしくお願ひしたいと思います。

②市が進める取組について（資料3）

(事務局：加茂)

1. 金剛地区エリアブランディング公民連携事業について説明。

(事務局：竹川、松本)

2. 金剛中央公園・多機能複合施設等整備基本計画の策定状況について説明。

(増田会長)

2つご報告があって、一つはエリアブランディングを公民連携事業でやっていただいたことについてですが、こちらはUR都市機構さんも共催されたんですか。何か補足ございますか、いかがでしょうか。今日は南海電鉄さんはいらっしゃらないので。

(島岡委員)

出来る範疇で、富田林市さんのやりたいことにご協力できたのかなと思います。

(増田会長)

はい、いかがでしょう、溝口委員。

(溝口委員)

民間事業者サウンディングに、URも参加したと聞いたんですけど、この事業に関して、昨年2月に意見書を求められて、私も出しましたがけれども、既に総合まちづくり部会から、公園・施設の整備計画を出しているんです。それは、今回のアンケート結果とほぼ同じ内容になっている。前回の推進協議会でも、もう進めるしかないんだという方向性を申し上げたところなんですね。ただ、今民間事業者サウンディングでURさんに話されたという話を受けて、この事業に私は再三申し上げておりますけれど、公共性を持たせたものであるべきだと。つまり、この事業を進めるにあたり、やはり市の財産として、公共性を重視してほしいと。提案の中にPFIも入っているのですが、民間のPFIではなくて、出来たらURさんが事業を支えるという形でいければ、このサウンディングに参加された意味があるのかなという風に思っておりますので、言いたいことは、行政が市の財産としての公共性を持たせた事業であるべきだということです。再三に渡って今までも言ってきましたことを、ぜひそういう路線でやっていただきたいと申し上げておきたいと思います。

(増田会長)

はい、分かりました。URさんに直接参加いただいたのは、このエリアブランディングの社会実験に参加いただいたということで、後半の金剛中央公園の案件について、これをどのような形でやっていくのかという事業者サウンディングの一事業者にはなっていないという理解でよろしいですよ。あくまでも、参加いただいたのは、社会実験ということでございます。いただいた意見としては、UR都市機構も含め、公的機能ということを中心に展開していくべきだというご意見をいただいたという理解でよろしいですかね。はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、新里委員どうぞ。

(新里委員)

エリアブランディングの件なんですけれども、まだアンケートの集計が出来ていないということで、手ごたえなどは発表されていないんですけども、これに参加して感じたこととしては、来られた方が、何をやっているのということが分からないと言われてたりもしていたところでは、広報をかなりの枚数を出されているんですけども、このチラシで高齢者の人たちがあまり理解出来ていなかったということもあるんですね。だから、しっかりとしたアンケートの評価と、手ごたえに対しても、真摯な反省をされて、次につなげてほしいかなと思います。

(増田会長)

他いかがでしょうか。こういう社会実験というのは、ある仮説を立てて、その仮説に対してどういう実証が出来たかというのが大事で、エリアブランディング公民連携事業というのは、一体何を実証したかったのかという仮説があって、それをアンケート等でどう検証できたかというような、そういうロジックで展開いただければ、今ご指摘いただいたことに応えていけるのだろうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。他はいかがでしょう。はい、品田委員どうぞ。

(品田委員)

私もこのエリアブランディング公民連携事業の担当ということで、妻とお昼くらいに行かせてもらったんですけども、ちょっと寒かったので、割と少ないかなと思ったんですけども、子育て世代の方とかも参加があって、それなりに今後に繋がるんじゃないかなという風に感じました。金剛駅から中央公園までのふれあい大通りをウォークアブルな空間にするということで、キッチンカーとかストリートファニチャーを設置ということでしたけれども、最後に駅やロータリーに繋がる場所で、一体的な空間づくりがないと、なかなか歩きやすいという形にはならないのかなという感想を持ちました。

発言のついでですが、大阪府では昨年末に、「大阪のまちづくりグランドデザイン」というものを策定しまして、広域的な視点によるまちづくりの戦略と取組の方向性を示しております。金剛ニュータウンだけではなく、金剛駅から泉ヶ丘駅を結ぶ、狭山ニュータウン、泉北ニュータウンといった連坦するエリアを一体的に捉えて、取組の連携、ノウハウの共有等、エリア全体の拠点性や居住性を高めるということを記載しています。そういったこともあって、今後とも、各地のまちづくりに関わっていききたいということで、グランドデザインの紹介をさせていただきました。

(増田会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(吉村委員)

感想だけいいですか。社会実験、僕も午前中だけ参加したのですが、正直何をしてるのかあまり分からなかったの、イベントの出店とかは目立ったんですが、ウォークアブルという点では、どのように歩いたらいいの、ベンチで何をしたいのかも分からなかったのと、あとはアンケートの提出先をスタッフの方が知らなかったり、恐らくアルバイト的な形で来られたと思うんですが、どこで何をやっているんですかと聞いても、むしろ僕の方がある程度関係してるので、僕の方がよく知ってるという状況で、何人か聞いたんですけど、ちょっと社会実験としては、準備が足りなかったのではないかなという感想を持ってまして、ウォークアブルということで、電動の色々とあったけれども、あれもちょっとグラウンドの方でやってたので、要するに歩道をどう使うとか、駅から中央公園までの、ここをどう使うとか、そういうこととは全く結びついたイメージがなかったの、ちょっとそういう点ではアンケートがどういう結果が出るか分かりませんが、もう一回ちょっと考え直した方が良くないかなと思いました。

それと、ここで発言して良いのか分かりませんが、この前の寺池台の桜の問題でね、桜を植えますということがあって、どこに植えるんですかという話で行きましたが、そのときに金剛再生の方が来られてなくて、農とみどりの方だけ来ていて、農とみどりの方は、私たちの責任ですからということで、非常に強くおっしゃっておられたんですけども、やっぱりトータルで金剛再生とか、農とみどりとか、もうちょっと市全体の各課がトータルで考えていかないと、非常にエリア的にも広いし、課題的に非常に色々ことがあるので、そういう体制が一番大事かなと。金剛再生の方から、担当課に任せないで一緒にやってくんだとおっしゃられたので、それはやっぱり市一体として、各課、各分野一体でやっぱり頭を捻っていただきたいなと思いますので、その上でのアンケートで、

次は方向ということ、すごく今感じてますので。

(増田会長)

はい、ご提言ということで。先ほどと同じ話になりますが、我々も学生に実験をさせるときに、やっぱり仮設の設定というものが大事で、何を検証したいから何をするのかという、その辺りをきっちり明示してやらないと、何かアリバイづくり的にやりましたみたいになるともったいないので、そこはぜひとも考えていただければと。

それともう一つ、アンケートの方ですけれども、先ほど少し溝口さんがおっしゃっていたように、今までここで議論してきた内容と今回取ったアンケートで、一体何が一緒に、何が新たに今回のアンケートの中から分かったのか、その辺りを整理してここに提示いただきたい。そうでないと、議論できないんですね。途中で止めましたけれども、一般市民の方とか施設利用者のアンケート結果で、殆ど想定できる話だし、ここで議論してきた内容と不一致な内容は殆どないと思うんですね。そういう検証をして、今までこの協議会で議論したり、提言してきた内容とどこが違うのかという分析まで踏み込んでいただいて、ここに提示いただければと、議論になるんだろうと思いますね。業務期間を一年間延ばされるという話の中で、アンケートなり、民間事業者サウンディングなり、今後どのようにしてこれを修練させていくのか、ということをお聞きしたいんですけれどもね。同じようなアンケートでは、同じような答えしか出て来ないので、この中からどのような手法をもって、修練させていくのかということ、もしお考えが市の方であれば、ご紹介いただければと思うんですけれどもね。

(事務局：塚本)

ありがとうございます。この間ですね、金剛地区まちづくり会議であったり、指針推進協議会の中で、様々なご意見を頂戴している中で、他の計画に合わせまして、改めてアンケート調査を実施したところでございます。公園というパブリックな空間を作っていく中で、まちづくり活動のプレイヤーの方々、他にも多くの方々がいらっしゃいますので、より広く意見を頂戴するという趣旨も含めて、多方面にアンケート調査をさせていただいたところでございます。今回、結果の説明の方が、あくまで速報値ということで、まとめきれずおらずに申し訳なかったところがあるんですけれども、速報値ということで、今回ご紹介させていただいたところでございます。今後、市の施設、公共の空間を作っていきますので、様々なご意見やお考えがあると認識しているところですが、やはり公共施設の投資というものは、将来何十年に渡って空間を作っていくことになりますので、様々なご意見の中で、最適解というものを作っていきたくと考えているんですけれども、民間事業者さんが考えておられることであったり、広く市民の方が思っておられること、また協議会等の中でいただいているご意見を、どのように上手く組み立てるのか、難しいところはあるんですけれども、その中でも将来に向けて、良いものを残していけるような形を提示していきたいと考えております。ちょっと答えになっているか分からないんですけれども。

(増田会長)

これは非常に難しく、アンケート調査をして、最大公約数の公園を整備したら、普通のどこに

でもある公園になるんですよね。ある意味、どこにでも受け入れられるんですけども、特色がなくだれも来ない。だからその辺り、どのように特化しながら、個性を付与して、地域と連携していけるのかという、その辺りに頭を絞っていただかないと、アンケート調査をしたり、施設利用者調査をすると、あれもしてほしい、これもしてほしいとなって、金太郎飴みたいになってしまったり、最大公約数になってしまうんですね。どこかで個性を持った、尖った特性を持たせないと、人からなかなか利用されなくなります。当然、公共性というものはベースですけども、その辺りのところを、今後どのようにして、この推進協議会とも議論しながら修練していくのかということ、ぜひ頭を絞っていただきたいなと思います。難しいことだと思うんですけども。

(事務局：塚本)

今回ですね、今まで公園にない機能として、子育て支援というものに力を入れて、将来若い世代を金剛地区に流入していきたいという思いがございます。そこが一番大きな特徴になっていくのかなと思うんですけども、民間事業者サウンディング等から得られました知見等も踏まえまして、どこまで尖ったものに出来るのかということはあるんですけども、皆さまからも色々ご意見をいただきながら、良いものを作っていきたいと思っておりますので、ぜひご協力の程よろしくお願いたします。

(増田会長)

先ほどのKON ROOMと一緒に、けっこう今回のアンケートでも、居場所的な、サードプレイス的な話も、今の世の中だから出て来ていたり、市民の方々が、自分たちがプレイヤーとして、ここでイベントをしたり、色々なことをやりたいという話がある。一方では、採算性という話があって、その辺りを具体的にどのようにして、公共投資をどこまで出来るのかということと、地方経済が回るのかということのバランスですよね。その辺りもきっちり議論をしないといけないんだろうと思いますね。循環型経済とよく言いますが、全部が民間だけで経済が回るかということ、公的な機能が非常に薄れてしまう可能性があって、公的な機能はある程度税金で賄いながら、残りの部分をしっかり循環型経済で回していくとか、財政上も非常に重要ですから、その辺りは十分に議論をいただきたい。議論をするために、良いものを残すために一年延ばすということは、非常に良いことだと思っているんですが、ぜひともお願いしたいと思います。何か他ご意見ございますでしょうか。

(中井副会長)

溝口委員がおっしゃったことと同じなのですが、今回のアンケート結果をまとめたら、我々が議論してきた中身と同じ結果ということだったと思いますが、それを全部盛り込むと、今増田会長がおっしゃったように、ありふれた公園になってしまいます。それでは、何のための再生で、これだけ議論してきたのか分からなくなるので、どのような方面に結論を持って行くのかを議論してもらって、進めていただけると良いんですけども、やっぱりバランスの取れたものでなくても、偏ったものでも良いから、そういう方向で基本計画をまとめてもらえたらなと思っています。

(増田会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。小野委員、何かございますか。

(小野委員)

例えば、論点の一つですが、誰が使うのかという話の中で、駐車場を大きくしないといけないという意見はけっこう出て来るんですけども、そのことだけを論点として持って来るんじゃなくて、もっとみんなが歩いて、ウォークアブルというのは、こういう公園にするという論点をいくつか見出しながら、先ほど言われたようなところをどうするのかということを考えていく必要がある。最終的には、これは利用者の人に来てもらえるのかということだと思っているので、もっとその辺りを考える必要があると思いますね。私はどちらかと言うと、やっぱり今まで利用してなかった人たちがどうするのか、すごく関心があるので、出来上がってしまう前に、ぜひその辺りをみんなで議論していけたらなと思います。

(増田会長)

一点だけ加えると、バリアフリーとか、もう少し進んだインクルーシブデザインと言われている、そこまで踏み込んでいかないといけない。バリアフリーというのは、車椅子の方と健常者が違うルートでも行き着くことができたなら、それでバリアフリーは達成できたわけなんです。インクルーシブデザインというのは、全く同じ方法論で行き着けるようにするというもので、少し違いを整理すると、そういうことなんです。個別のルートを選択しなくても皆が使えるような、そういうレベルまでいかないといけない。はい、ありがとうございます。いかがでしょう、大体よろしいでしょうか。少し時間があるということですので、十分に議論をしてもらえたらと思います。はい、どうぞ。

(友田委員)

一点だけすみません。社会実験でもそうなんですけれども、中央公園の計画でもそうなんですけれども、今回の社会実験については、市・UR都市機構・南海電鉄が共同でされたということですけど、しっかりと練られたというイメージをあまり持っていないんです。さらに地域の課題に応えるようなものにするのであれば、モビリティについても、本来は高齢者が乗れるようなものになっているのかとか、その辺が我々に伝わらない。だから地域の課題があって、それを解決するために地域を巻き込んで、もっと考えたり作り上げたりすることが大事だということと、やっぱり公園の施設を作っていくにあたっては、地域と一緒に考えないと、後々続いていけないと思いますので、やっぱりその辺の視点をもう少し加えていただきたいなという風に思います。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。大体よろしいでしょうか。何かをやれば、必ず色々な反省事項が出たり、次の展開が見えてくると思います。その他何かございますでしょうか。

(3) その他

(事務局：塚本)

一点だけすみません。チラシを一部配布しております。富田林市で遊びつくせと書かれたチラシです。こちらですが、本市で若者会議という取組をしております、このイベントに関しましては、若者会議の方で、若者から提案のあった事業を実現したものになっています。今回、富田林市教育委員会が主催で、たまたま今回、金剛中央公園の方がフィールドということで、ご案内の方をさせていただきます。3月5日に金剛中央グラウンドの方で、ニュースポーツの体験イベントが行われるということで、広く皆さまご参加いただけますので、ご興味がある方はお申し込みいただければと思っております。以上です。

3. 閉会

(増田会長)

どうもありがとうございました。少し進行がまずくて、15分オーバーさせていただきましたけれども、以上でよろしいでしょうか。特に意見交換や情報交換を密にして、色々な意味で課題をあぶり出して、知恵を絞るみたいな形で、皆でやっていけたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、これもちまして、本日の協議会を終了したいと思ひます。どうもありがとうございました。